



金融財政

2006年(平成18年) 10月5日 (木) 第9780号 (購読料金 月額税込み5,565円)

「壊してはつくる」時代

お茶の水女子大学教授 篠塚英子



安倍内閣が発足した。女性エコノミスト数人の飲み会日程調整の渦中で起きたサブライズ人事が、

大田弘子氏の経済財政担当相。急遽、新大臣抜きで、応援団飲み会に切り替えた。

もう1人の女性大臣、高市早苗氏は沖繩・北方担当のほか、少子化・男女共同参画担当も兼務。日ごろ夫婦別姓反対派で知られる。前任大臣の猪口邦子氏との政策不連続は明らかだ。とはいえポスト小泉を争った3候補は、「少子化問題」を激論しても、どなたも女性政策に触れていなかったから規定路線なのであろう。

政治と無縁な大学には蟬の声と交代でキャンパスに女子学生の高い声に戻ってきた。そんな研究室に、日銀時代に世話になった元山形事務所長宮坂不二生氏が尋ねてきた。知る人ぞ知る日銀における変人、逸材である。

山形着任で自然・風土、文化すべてのとりこになった。だが、豊かな地域は悠々たる最上川を抱えているが地域連携があまりに少ない。地域活性化のネットワークづくりが即座に奔走した。1年に

わたり地道に産業、行政に働き掛け、ついに01年7月「美しい山形・最上川フォーラム」の仕掛け人として成功させた。「美しい○○」は安倍首相より数年先んじている。現在県内外から支持者約5千人、360の企業・NPOが会員になっている。山形生まれの私も即座に入会した。

当時の知事が支援を約束し県に事務局を置き、産官学運営で丸5年になる。また、通常2年の日銀人事を地元財界の人物が直訴して、宮坂氏は5年強も駐在することができたとか。

現在は日銀を退職して第2の職場にあるが、久しぶりにあつた顔が浮かない。聞くと去年知事の交代があり、今年になって新知事から県財政悪化を理由に、今後、県は事務局業務を担当しない意向を伝えてきたという。「民でできることは民で」と言い放つだけという。どこかで聞いた台詞である。

組織づくりの生みの苦しみがやつた者でなければ分からない。だが、壊すのは一瞬である。新内閣発足によって、これから中央、地方で、また壊してはつくる作業が始るのであるうか。

CONTENTS

- 解説 当面は円安地合い、
来春以降「円高転換」へ(斎藤 満)
安倍政権下の市場動向を読む—(為替)…… 2
- BANCO 新政権と金融政策(額賀 信)… 3
- 照一隅 評論家の哀れ(凡愚羅)…………… 5
- マーケットリーダー
ソニーの凋落(石室 喬)…………… 9
- News Eye
揺れた貸金業法改正—その軌跡……………10
- 拍子木
「成長戦略」の幻想(庸順然子)……………11
- インタビュー 諮問会議で改革工程表、
あるべき姿へ「調整」も
—大田弘子経財相に聞く……………14
- あと・らんだむ (神崎倫一)……………15
- News Eye
FRBの「次の一手」に注目……………18
- 北風・南風 茨城県信組(茨城)……………20